



平成 28 年 2 月 12 日

各 位

提出会社名 ローランド ディー・ジー・株式会社
代表者名 取締役社長 富岡 昌弘
(コード番号 6789 東証第一部)
問合せ先 執行役員経営企画本部長 長野 直樹
(TEL. 053 - 484 - 1400)

中期経営計画（2016 年度～2020 年度）の取り組み

記

このたびローランド ディー・ジー・グループでは、2016 年度（平成 28 年度）を初年度とした 5 ヶ年の中期経営計画を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 中期経営計画策定の背景

前中期経営計画（2013 年度～2015 年度）においては、新たな成長に向けて新規事業分野や新興国地域での市場創出を促進するために、先進国サイン市場中心の事業運営体制を見直し、経営環境変化に柔軟に適應できるグループへの構造改革「GlobalOne（グローバルワン）」を実行いたしました。積極投資により、開発・製造のものづくり機能と、海外販売会社を中心としたセールス・マーケティング機能を増強すると同時に、両機能の距離を縮める組織構造改革が完了し、新体制によって世界各地で新たな事業機会を見出しています。

そして、新中期経営計画（2016 年度～2020 年度）は、「GlobalOne」を基盤にイノベーションを実行するフェーズと位置付け、グループ一体で成長分野の事業化に取り組むとともに、ICT（情報通信技術）による社会や産業の構造変化を積極的に取り込みながらソリューション革新を加速し、持続的成長に向けた事業構造改革を果たします。

2. 基本方針

GrowthOne（グロースワン）

「イノベーションによる持続的成長の実現」

3. 重点施策

(1) 成長分野の事業化の加速

事業領域を従来の「カラー&3D」から「Imaging & Healthcare（イメージング&ヘルスケア）」に再設定し、独自性のある新規事業の創出と育成を推進します。Imaging は色や形状の表現とともに、プロセス革新による新たな創造性を提供する領域、Healthcare はデジタル技術で人間の機能を補完し安心や笑顔を提供する領域と位置付けています。当社のデジタル技術が活きる分野に具体的な注力市場を設定し、グループのリソースを戦略的に配分して事業化を加速します。

多用途印刷：消費者の個別ニーズに応えるデジタルプリントの機会が拡大しており、多様な素材や形状への印刷技術と表現力でニッチ用途を掘り起こし、高付加価値市場を築きます。

リテール：商品の個性化や店舗への集客など小売業界の課題に対して、店頭でのオンデマンド加飾や顧客の創造体験を提供し、デスクトップ発想とアプリケーション開発力を活かした独自市場を形成します。

テキスタイル：ファッションニーズの多様化や個性化の中で、テキスタイル産業には多品種少量化が求められ、ファッション業界ではプライベートブランドなど新たな事業モデルが発生しています。市場変化を捉えたソリューション開発により、高付加価値の新プロセスを提供します。

サイン：用途開発による顧客のビジネス機会創出、ソリューション提案力の強化によって顧客価値の拡大に集中するとともに、グローバル販売網を活かして勃興する新興国地域に顧客基盤を築くことで、収益力と継続性のあるビジネスモデルへ転換します。

3Dものづくり：3Dプリンターの登場やエンジニアの世代交代により当社が30年来取り組む市場は大きく変化しています。アイデアからカタチまでのプロセス簡便化と、立体造形の技術革新に取り組み、次世代クリエイターのものづくりやHealthcare分野での実用化を進めます。

デジタル：素材技術などの進歩とともに再生医療やオンデマンド治療の普及が始まっています。最新素材に対応するとともに、3D技術の強みを活かした独自のデジタルソリューションで、グローバル展開とシェア拡大を図ります。

(2) ソリューションプロバイダへの転身

価値創造や市場創造を成長の中核とする当社は市場変化への適応力が重要ですが、今後、製品単体では多様化するニーズへの対応や独自性の維持は難しく、ソリューションプロバイダとして顧客価値の再創造に取り組みます。コア技術革新への積極的投資を行うとともに、ICT（情報通信技術）の発展を見据えて当社の強みである3R※を進化させ、「顧客価値をもたらす全て」を「サービス」としてユーザーに提供するソリューション革新にグループ一体で取り組み、新たなデジタルネットワーク時代に適合したビジネスモデルに刷新します。

※3R：お客様のビジネス支援につながる3つのサービスサポート活動の総称。用途事例やアイデアなど最新情報を発信する「ローランド ディー. ジー. クリエイティブセンター」、トレーニングやセミナーを開催する「ローランド ディー. ジー. アカデミー」、そして製品導入後のメンテナンスサービスによる安心安全を提供する「ローランド ディー. ジー. ケア」で構成され、この3Rを世界均質で展開しています。

(3) イノベーション集団への転身

グループ全体の組織構造「GlobalOne」をプラットフォームとする成長分野の事業化や、ソリューション革新など、新中期経営計画期間の挑戦を通じて、企業家精神を持った強いイノベーターを育成します。そして、変化に対して常に柔軟で躍動感のあるイノベーション集団に転身することで、将来にわたる持続的成長の基盤を築きます。

4. 業績計画

| | 実績 | 当期計画 | 中期経営計画 |
|------------|---------------------|--------------------|--------------------|
| | 2015年度* (平成27年度) | 2016年度 (平成28年度) | 2020年度 (平成32年度) |
| 連結売上高(億円) | 451(470) | 487 | 760 |
| CAGR | | | 11%(10%) |
| 連結営業利益(億円) | 40(53) | 46 | 100 |
| CAGR | | | 20%(13%) |
| 営業利益率 | 9%(11%) | 9% | 13% |
| ROE | 11%(14%) | | 15% |
| 1米ドル | 121円 | 115円(想定) | |
| 1ユーロ | 134円 | 125円(想定) | |

※2015年度は、単体が4月から12月の9ヶ月間、連結子会社は1月から12月の12ヶ月間を連結対象とした変則決算期間です。なお、12ヶ月決算に補正した数値を括弧内へ記載しております。

5. 配当方針

当社では、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題と認識しております。配当方針につきましては、業績に応じた利益還元を基本とし、連結利益に対する配当性向30%を念頭に今後の事業展開を総合的に勘案の上、決定していく方針といたします。

以上

※本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。これらは現時点(2016年2月12日現在)で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、これらの見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。